空を飛びたがったペンギン　ピポ

作・絵　阿瓦列何恩雅

空を飛びたがったペンギン
ピポ

ここは、南の海。
みんなよりすこしちいさな
ペンギンのピポは、
家族といっしょに
氷と雪でできたおうちで
のんびりくらしていました。

ピポは
空をながめるのがだいすき。
今日も氷のソファから
空をみあげます。
ビューン。
鳥が空をじゆうに飛びまわります。

「かっこいいなあ、
ぼくもあんなふうに
お空を飛んでみたいな。」

ピポはちいさな羽をパタパタさせ、
ソファの上からジャンプ！
こころの中はきたいでいっぱいです。

ところがとびあがった次のしゅんかん、
ストンッ。床におちてしまいました。
「ああ、やっぱりむずかしいや…」
それでもピポはあきらめません。
空をながめるピポの目は、きらりと光っていました。

その日の夜、ピポはふしぎな夢をみました。

パタパタ、ビューン。

鳥たちといっしょに空を飛びまわったり、

雲のソファに座ったり。

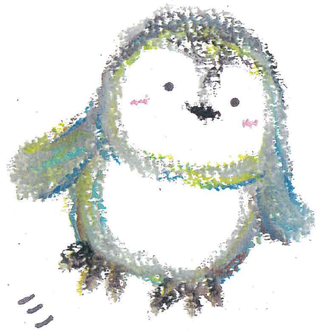
白い雲をとおりぬけて、青い空をスイスーイ。

夢からさめても、むねのどきどきはおさまりません。

「ぼく、ほんとうにあんなふうにお空を飛んでみたい」

ピポは夢のつづきを思い出して、

にっこりほほえみました。

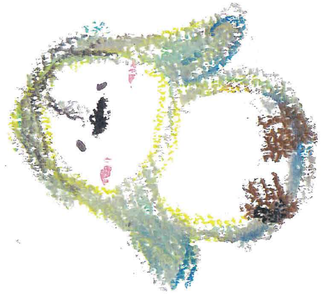


朝になると、ピポは丘の上にのぼってみました。
「ここからなら飛べるかも！」そっと羽をひろげます。
でも、ツルンッ。足がすべってころころころり。
「うわぁー！」ピポは雪の上をころがっていきました。

パタパタ、ストンッ。パタパタ、ツルンッ。
なんどためしてもうまくいきません。

空を飛んでいた鳥たちがピポのまわりに集まってきました。

「きみ、なにをしているんだい」
いっぴきの鳥がピポにききました。



「空を飛ぶれんしゅうをしているんだ」
ピポはじまんげに言いました。

「なんだって」

「きいたかい、この子は空を飛びたがっているそうだ」

「ペンギンが空を飛べるわけないのにな」

鳥たちはピポをわらいます。

「ペンギンはお空をとべないの？」

ピポはびっくりしました。

とぼとぼ歩いて家にもどると、

ピポはおかあさんにたずねます。

「おかあさん、どうしてぼくたち

ペンギンはお空をとべないの？」

おかあさんはピポをそっとだきよせます。

「ピポ、空を飛ぶ鳥さんもすてき。でもね……」

「あなたの羽も体も、海のための形なの。」

おかあさんの言葉に、

ピポは目をぱちぱちさせました。

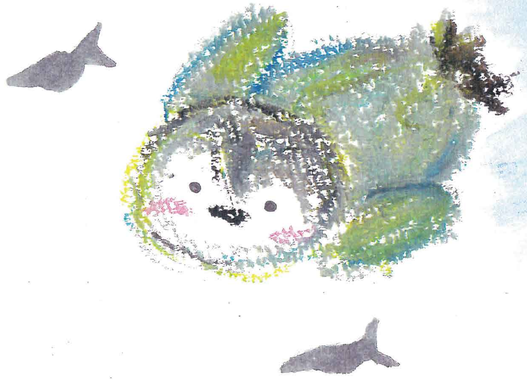
「海のためのかたち？」

おかあさんは
ゆっくりつづけます。
「海の中ではね、
ピポの小さな羽は、
泳ぐときに水をかくための
“つばさ”になるのよ」
ピポは自分の羽を見つめ、
そっとさわりました。
「ぼくの羽は、
水をかくために
ついているんだ」

ピポはまだ海の中に入ったことがありませんでした。
「海は暗くて冷たくて、ちょっとこわいな」
お空が大好きなピポは、海が苦手でした。

その日の夜、ピポは夢をみました。

パシャパシャ、ヒューン。



魚たちと一緒に海を泳ぎまわったり、

サンゴのソファに座ったり。

白い氷をとおりぬけて、

青い海をスイスーイ。

朝になると、ピポは海のそばまで歩きました。

「よし、いってみるぞ！」

チャプン、勇気を出してとびこむと、

ひんやりした海の水が

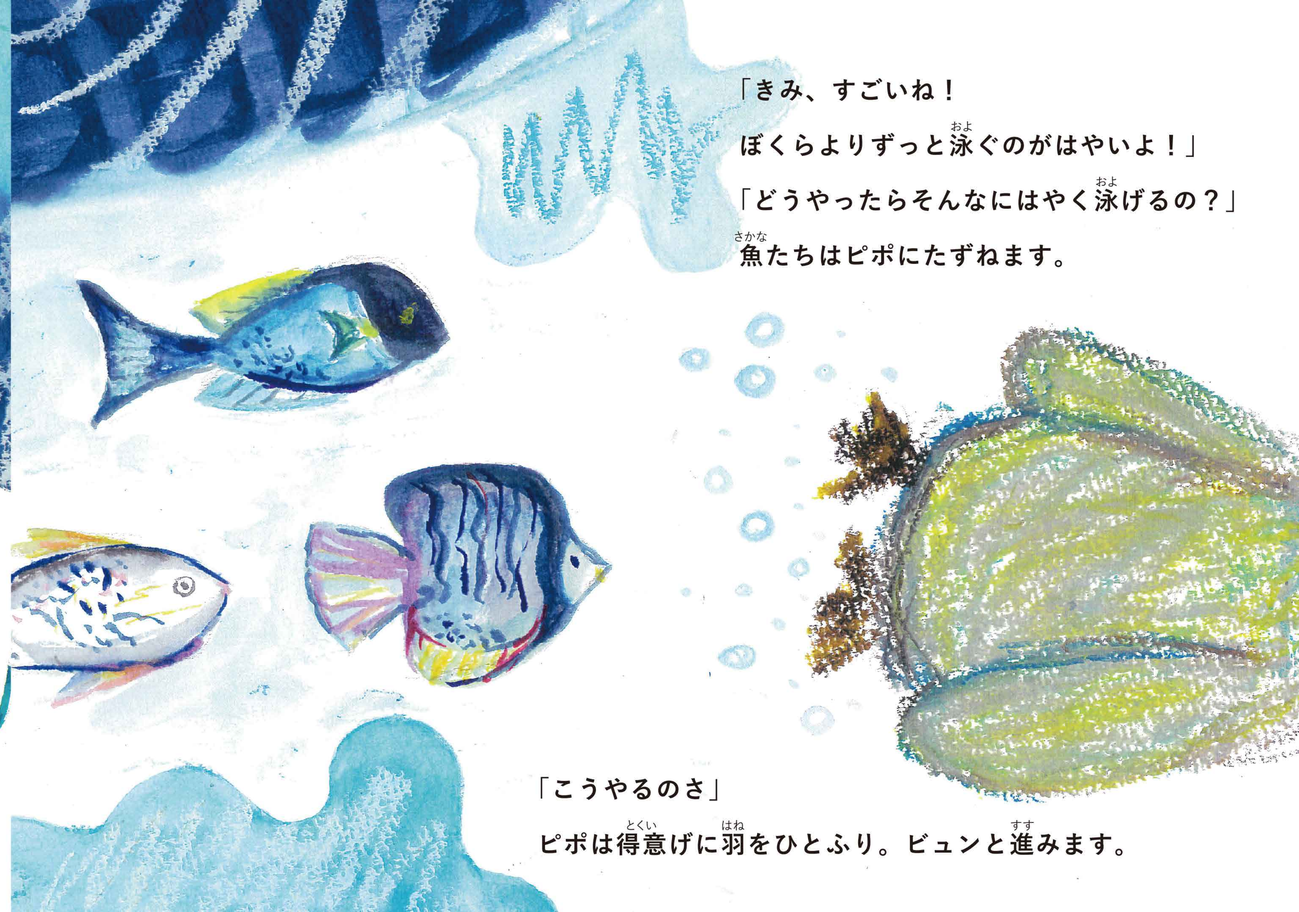
やさしく体をつつみました。

ふしぎとこわくありません。

ピポが羽をひとふりすると、
スーイ。体が前へ動きました。
もうひとふり。スイスイ！
「わぁっ、泳げた！」
ピポの胸はどきどきとはずみました。

パシャパシャ、スーイ。
パシャパシャ、ヒューイ。
ピポはぐんぐんすすみます。
海を泳いでいた魚たちが
ピポの周りに集まってきました。

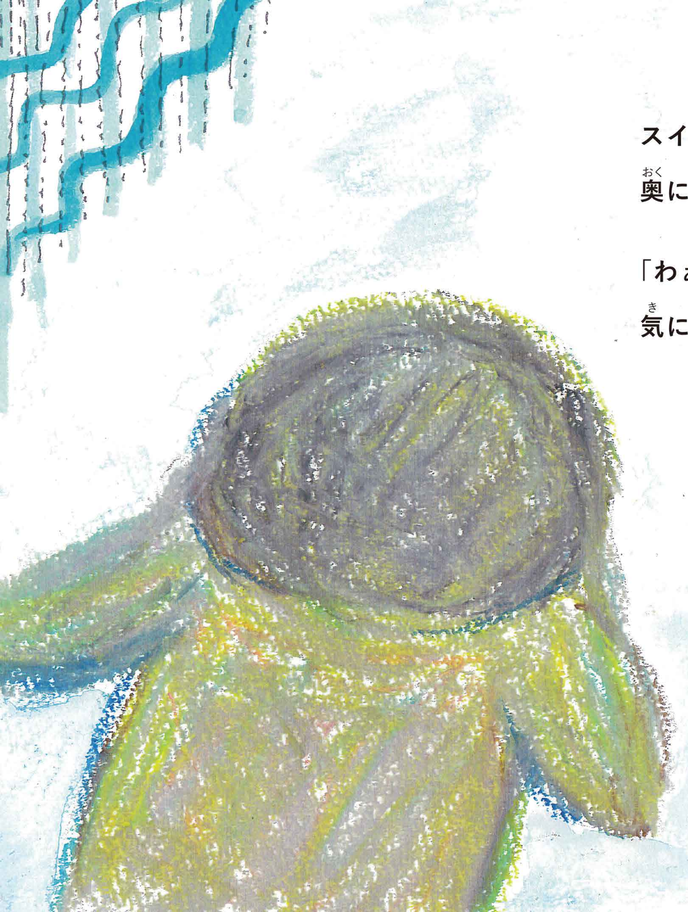
「きみ、すごいね！
ぼくらよりずっと泳ぐのがはやいよ！」
「どうやったらそんなにはやく泳げるの？」
魚たちはピポにたずねます。



「こうやるのさ」
ピポは得意げに羽をひとふり。ビュンと進みます。

スーイ。ピポはだれよりもはやく泳いでいきます。
「ぼく、海の中を飛んでいるみたい！」
ピポは嬉しそうにいいました。

スイスーイ。ピポは海の中を冒険します。サンゴのソファ、わかめのソファ。
いろんな海のソファに座ってみました。「おうちのソファとはちがうけど、どれもほっとするな」
「ぼく、海が好きだ！」



スイスイスーイ。
奥にキラキラしたものを見つけます。

「わぁ！キラキラひかってる！あれは何だろう？」
気になったピポは光のもとへ向かいます。

近づいてみると、
キラキラした貝殻がそこにありました。
「きれいだな。
おかあさんにわたしたら
きっとよろこぶぞ」
ピポはそっと貝殻をかかえあげ、
おうちに帰ります。

「おかあさん、プレゼントだよ。海の中で見つけたんだ」

「まあ、ありがとう。すてきだわ」

おかあさんのよろこぶ顔をみて、

ピポの胸はぽかぽかあたたかくなりました。

「ぼく、海の中だったら飛べるって気づけたんだ」

「そうね、ピポ。わたしのたからもの。

あなたは海を飛ぶ立派なペンギンよ。」

NOYES
SOFA100%

2026 年 2 月 21 日発行
著者　　阿瓦列何 恩雅
発行者　株式会社NOYES
第 11 回　NOYES絵本コンクール 大賞作品